壬生町政だより

37年 7月号

No. 43
毎月1回発行
発行所 栃木県壬生町役場
印刷所 株式会社 新生社

諸統計 より

人口	統計	前月対増減
	37年7月1日現在	
総人口	23,672人	1人増
男	11,522人	0
女	12,150人	1
世帯数	4,464世帯	6世帯減

西欧諸国を視察(御報告)

今後の壬生町発展策について

小田垣町長

このたび壬生町議会の決議によりまして、六月三日北廻りにて、復路は南廻りにて出発、英、仏、西独、伊、スイス等の西欧諸国の発達都市並びに世界的に有名な「おもちゃの町」西独ニュールンベルグ市を中心とする工場団地形成その他、行政各般の視察をいたしまして、去る六月二十四日午前三時羽田空港着にて無事帰国いたしました。

文化的にも、経済的にも、先進国である西欧各国の住宅団地、商工業地帯、農業状態、特にデンマークの酪農、西独の世界的な道路網整備及び工場誘致による都市計画の実施等をつさに見てきたいと思います。

我々政府は国民所得の増大、工業立国、農業近代化、マンモス都市東京都の人口分散方法としての首都圏整備区域の指定、地方振興都市造成、低開発地域の指定、その他種々の画期的な施策が国会を通り、実施されていることと思います。

また諸国の導入、中流県にあるエンアントのカイロ市、インドのカルカッタ市、東南アジア、タイ国のバンコック、香港香港等に立ちより、未開発状況にもふれてまいりましたが、お陰様で大変元気に満喜旨の成果として参りました。

今後はその体験を都市計画、商工業地帯造成及び町政各般に反ぼすよう最大の努力を尽す所存であります。

私が町政に関与以来、一貫して町政の発展に対しては、誠心誠意をもって参いたしますが、今後の壬生町の発展策は如何にあるべきか、特に都市計画をこのように進めてゆくかについては、町民の皆様も深い関心を持っておられることと思いますので、この際その基本方針を述べて御理解を頂きたいと思います。

現今の政治は、経済は政治の流れであり、政治は経済の源であります。

これが早期実現を期して町政調査会と密接して難題解決に努力しております訳です。会長は長島県知事、本県選出知事は副会長、私も木県の代表選挙人として木県出身都長として二人が出席することになりました。

このように壬生町の都市計画は未だ明るくなりましたが、その好条件のもとその実現をしっかりと把握して、壬生町百年の計画を立てねばなりません。これが都市計画であり、町長として私に課せられた責任であります。これこそ私が町民の皆様にお願いする仕事であると思い町政万般にわたり努力を続けていく次第です。

今回の欧州視察の主目的たる西独ニュールンベルグは四十五万の人口を有し、福祉の非常に大きいすばらしい都市です。かつて第二次世界大戦の爆撃でその七割五分を失った都会とは思われない発展ぶりには驚くばかりであり、工業、商業、住宅地帯、道路行政、都市施設等は注目に値するものがあります。

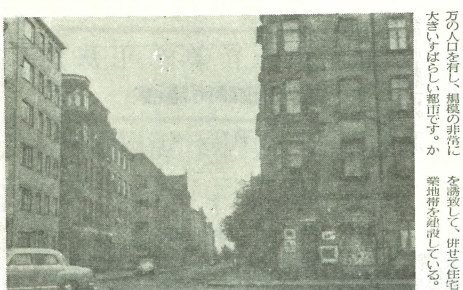
散歩により東西両ドイツに二分された西ドイツがこのように復興を遂げ得たは、西ドイツ国民の努力もさることながら、産業復興輸出第一主義を堅持した西独の理事会の決意を見逃すことはできないと痛感しました。

工場誘致と都市計画とは壬生町と同格ぐらいの町を見て参りました。

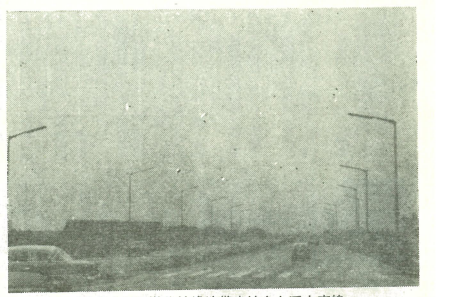
イタリアのデボネは人口一万余で、ローマ市より約五十キロの郷外の都市ですが、日下約数百万坪のぼう大な地帯に工場を誘致して、併せて住宅及び商業地帯を総合計画しているその状況を視察して非常に得るところがありました。

小都市ではバス道がただ唯一の輸送機関です。それに比較すると壬生町には道路が網の目と東武鉄道があり、壬生、国府、今市方面と直通し、日本第一の貿易港横浜にも相々たる都市と密接に結ばれております。特に石橋、壬生間及び小山、沼間が結ばれれば四号国道に匹敵する重要幹線道路となります。

目先と国際感覚の話もありますが、特に石橋、壬生間及び小山、沼間が結ばれれば四号国道に匹敵する重要幹線道路となります。



左側の建物が西ドイツの玩具工場



西ドイツの道路は緑地帯をはさんで六車線

奨学金の貸付け

県育英会

県育英会は県内の生徒に学資を貸付けたり、また東京都目黒に男子と女子の学生寮を建てて大学に学ぶ人たちが安心して勉学の出来る場を提供しています。

学生寮の入寮募集は毎年一月頃から二月末日まで受付けております。

奨学金は県の高等学校に在学している一年生を対象として年一万二千円を百名に貸付けることになりました。貸付は近く県内の各高等学校をとおして募集しますから、希望の方は学校をとおして申込みください。

栃木県育英会事務局
(県庁文書課内)

今月の納税

国保資産税 第二期分

臨時バスが出ます

踊り大会には特別に臨時バスが出ます。時刻は次のとおりです。

上田・壬生行 午後六時 二台
羽生田・壬生行 午後六時十五分 二台
壬生・上田行 九時 十時
壬生・羽生田行 十時
壬生・稲葉行 九時 臨時バスの乗り場は栄町の宇賀神呉服店わきになります。

踊り練習会

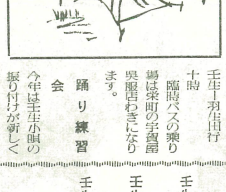
今年は壬生小唄の振り付けが新しくできたので、その練習をやっています。希望の方は各公民館に申込んだ上ぜひ練習会に参加ください。

簡易人間ドックの開設

健康保険組合加入者の健康増進と病気などの早期発見と体力の正しい評価をするために左記のとおり人間ドックを開設しました。

日時 (1)9月1日～3日 (2)9月4日～6日
場所 壬生町立壬生小学校
対象 (1)30才～39才 (2)40才～49才
経費は一千円程度です。

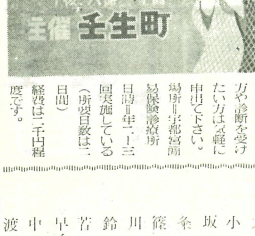
お知らせ



八月十六、十七日
壬生音頭踊り大会

恒例の壬生音頭踊り大会が八月十六日、十七日の両日にわたり午後六時から十時まで壬生小学校庭で開かれます。

月おくれお盆になる施設の完



暑中お見舞申上げます

昭和37年盛夏

壬生町長 小田垣健一郎

壬生町議会議長 斎藤米吉

壬生町議会副議長 臼井一巳

壬生町議会議員

上野高明　星佐一郎　黒川徳治　玉由一　中村義市　長保俊　山田都二　三上春信　篠原利雄　清水与之助　倉井勇治　高岩徳次郎　浜野清　松本徳太郎　平原茂雄　大塚竹一　小菅金二郎　坂本義隆　釜川秀武　篠原義久　川場良作　鈴木武雄　菅林茂一　早乙女武　中村重作　渡辺儀一

羽生田ほか三ヵ所完成

37年度土地改良事業

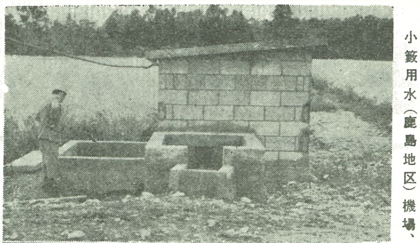
昭和三十七年度の土地改良事業は町政の重点施策となっていますが、小田垣町長の指示により係りでは田植に間に合わせるよう事業の施行をすべく、突かん工事を行ない下稲葉、安塚、羽生田、小籔の四ヵ所が五月三十一日限りで完成しました。田植の植付け前にできた事で関係者一同大喜びです。今年のように雨の多い年にガッチリ完成しておけば、昨年や一昨年のように干ばつが来ても大騒ぎをしないで、農業経営に安定感が得られます。

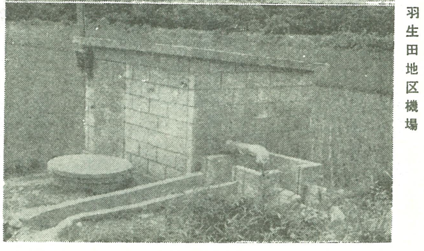
下稲葉土地改良区＝支線工事で延長二、一一六メートルU字フリユーム管ふ設、受益面積二十五町歩で事業費百八十二万円。

安塚前田用水地区＝用水路コンクリートライニング八十五メートル、前田堰護岸工事三十メートル、受益戸数十八戸で事業費三十一万円。

羽生田かんがい排水事業＝機械揚水事業で受益面積は十五町歩ポンプ五吋渦巻ポンプ、七・五HPモーター五ヵ所で事業費百八十万円。

小籔用水土地改良区＝（イ）機械揚水事業八吋十五HP一台、六吋十HP二台、五吋七・五HPが一台の計四基で事業費百九十三万円。（ロ）機械揚水事業八吋十五HP一台、受益戸数二十八戸で事業費六十二万円。





小籔用水（鹿島地区）機場、羽生田地区機場

追加更正予算を可決

第3回臨時町議会

昭和三十七年度第三回の臨時町議会は七月九日午前十時役場議場に招集されました。上程された議案は壬生町歳入歳出追加更正予算第一号の一件だけです。

こんどの追加更正予算額は一千十七万一千五百七十七円の増額です。当初予算額一億三千二百三十七万二千四百四円に加えて合計で一億四千二百五十四万三千九百八十一円となった。

歳出の主なものをひろってみると教育関係＝藤井小学校改造費五十万円、壬生中学校の備品費二十五万円、同職員便所ほか三十万円、稲葉中学校増築に九十五万円の増、犬飼中学校増築工事百十万円の増など。

その他都市計画用三千分の一地図九十万円、稲葉支所建設費四十五万円、県単土地改良事業費補助七十八万三千円の増、役場費旅費は町長渡欧費百万円を掲上した。

歳入では町税で三百十七万五千四百六十一円、地方交付税を国から三百万円などの収入を見込み計上した。

農業近代化資金の貸付け

農業基本法が成立し満一ヵ年を迎えました。その中でいわれている構造改善事業をするためには、選択的拡大や農業生産力の高揚、農業基盤の確立が必要です。

そのために農業近代化資金の貸付けという制度があり❶施設資金❷機械購入資金やその他があり、低利で長期にわたります。窓口は各農協で扱っておりますから、ご相談下さい。

❶施設資金（利率は年九分五厘、この内三分は県費利子補給分）償還は十二年以内。

種類＝農舎、畜舎、蚕室、農産物乾燥施設、たい肥舎、温室、サイロたい肥盤、農業用貯溜槽、果樹棚、電気牧さく農業用索道、排水施設、かん水施設、農産物処理加工施設農産物貯蔵施設、農業生産資材製造施設、農機具保管修理施設、病害虫等防除施設、ふらん育すう施設、きのこ栽培施設、家畜人工授精施設、家畜市場施設または家畜診療施設の改良造成または取得に必要な資金。

❷機械購入資金（利率は前と同じ）償還期限は七年以内。

種類＝原動機、揚排水用機具。

耕耘整地用機具、農作物育成管理用機具、肥料調整散布用機具、病害虫等防除用機具、収穫調整用機具、農産物処理加工用機具、畜産用機具、養蚕用機具または運搬用機具の取得。

❸果樹の植栽に要する資金（利率は九分五厘、内三分利子補給）

❹イ、牛、馬、めん羊、山羊または豚の購入資金（利率は年九分五厘内三分は利子補給）償還は五年以内。

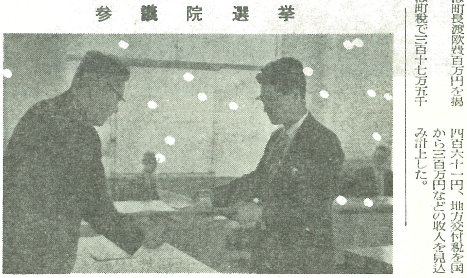
ロ、乳牛、肉用牛の購入に必要な資金（利率は年八分五厘内三分利子補給）

❺事業費が十二万五千円をこえない規模の農地または牧野の改良または造成に必要な資金（利率は年八分以内、内三分は利子補給）

全般を通じて融資限度額＝農業を営む者百万円（ただし知事が必要と認めたものは二百万円）農業を営む合名会社、合資会社、有限会社および農業を営む者が組織する団体は一千万円。

投票率一位は栄町

参議院選挙



七月一日行われた参議院議員の選挙投票率は、全国的にも非常に良く栃木県は六八・七八％、壬生町では六三・七五％でした。

壬生町選挙管理委員会は農繁期における選挙なので、広報車児童生徒による棄権防止を行ない効果を上げました。

また投票率の良い町内を表彰することになり、集計の結果次のとおり表彰を行なった。

❶栄町九一・九四％、賞状、賞金三千円❷城内八八・四八％賞状賞金二千五百円❸城東町八八・〇五％、賞状、賞金二千円❹城東八七・五九％、賞状、賞金千五百円❺上通町八〇・四三％賞状、賞金千円

以下六位仲通町八〇・一七％、七位台坪七九・八三％、八位田向七八・六三％、九位舟町七七・四〇％十位上坪七四・六三％となっています。（写真＝選管委員長より表彰をうける栄町総代）

求人・求職でおねがい

栃木公共職業安定所

栃木公共職業安定所では、明年三月中学校、高等学校卒業者の求人求職の取り扱いを次のように行います。

▽事業を営む方へ

最近の学卒者の募集については絶対数の不足からお困りのことと思います。

安定所では、なるべく早目に求人の申込みをいただき、紹介体制を確立するよう計画いたしておりますので、明年の学卒者の採用を計画されている事業所にあっては、次の通りご協力下さい。

1、求人はなるべく早目に、できれば八月三十一日までにお申込み下さい。

2、新卒者を迎えるために、よい職場環境を作って下さい。

3、事業所を管轄する安定所へお申込み下さい。（中学校では受付けいたしません）

4、できるだけ中、高年令者を採用下さるよう、また、適正な採用人員をお申込み下さい。

▽就職される生徒や父兄の方々へ

明春就職される生徒や父兄の方々は、それぞれ、就職について、お考えのことと思いますが次のようなことにご注意下さるようお願いいたします。

1、就職は学校安定所を通じて採用条件のはっきりした事業所へ就職して下さい。

2、栃木県の産業発展のため、なるべく県下へ就職して下さい。

3、安定所では十一月から職業相談のため、各学校を訪問いたしますから気軽にご相談下さい。

裁定上の問題点

福祉年金

準母子世帯とは

実際にはいろいろありますが、基本的には次のとおりです。

❶祖母が受給権者となる場合

イ、祖母の夫が死亡したときに祖母が孫と生計を同じくしている世帯。

ロ、祖母の息子が死亡したときに祖母が孫と生計を同じくしている状態にある世帯。

（この場合は祖母に配偶者がいないことが条件）

❷姉が受給権者となる場合。

イ、姉の夫（弟妹の義兄）が死亡したときに姉がその弟妹と生計を同じくしている。

ロ、父が死亡したときに姉が弟妹と生計を同じくしている状態にある世帯。

（この場合は姉が独身であることが条件）

ハ、祖母が死亡したときに両親のいない姉が弟妹と生計を同じくしている状態にある世帯。

（この場合も姉が独身）

姉が受給権者となるには、本年四月一日で二十才をこえているかまたは準父の死亡時において二十才以上であることが必要です。

初出荷パレード

加工用トマト耕作組合

壬生町加工用トマト耕作組合（高山選組合長）では、八月二十六日午前十一時壬生小校庭にトラック十五台にトマトを山積みして集まり小田垣町長、関口下都賀農業指導所長らの祝辞を受けたあと西那須野町の愛知トマト加工場まで「初出荷祝賀パレード」を行いPR満点のパレードを行なった。南犬飼地区は早くから蔬菜栽培に力を入れていた所だが、適地適作の実が結び契約栽培面積十八ヘクタール耕作者二百三十人をようする同組合と集荷工場が契約を結んだものです。収穫は十アール当り平均八トン約八万円が見込まれます。

壬生小校庭にせいぞろいした自動車

申告所得税の第一期

昭和三十七年の申告所得税第一期分の納税は、七月一日から七月三十一日までです。

お近かくの銀行または郵便局へ早目に納税をすませましょう。

個人事業税の第一期分

八月は個人事業税第一期分の納期になります。八月の中旬ごろみなさんのお手もとに徴税令書が届くものと思いますから、ぜひ納期限の八月三十一日までにおねがいいたします。

納税する場所は近くの郵便局、銀行、信用金庫または県税事務所です。

優勝は壬生富士産業

第六回町内職域野球大会

今年の壬生町職域対抗の野球大会は七月七、八日の両日にわたって壬生小学校、中学校々庭で行われた。

つゆ空をついて熱戦がくり広げられ決戦には壬生富士産業と壬生町役場で行われ、九対一で壬生富士産業が圧勝した。

壬生史帖

伝説その三

稲葉の里の吉次塚

壬生町稲葉地区は古くから開けた所で多くの伝説がある。その一つ吉次塚（現在は塚なく墓石のみ）の由来を上稲葉阿久津輝吉氏の著書の中からとる。

源義経が牛若丸といって比叡山延暦寺にいた頃ひそかにこの山を脱けでて、当時京都に次ぐ文化を作って勢威を振っていた源氏の後援者奥州平泉の藤原秀衡を慕って奥州下りの際一役をかって無事秀衡のもとにとどけた。その人は、奥州の産で豪商金売吉次その人であった。

吉次は平泉と京都の間を往来して商売し巨万の富を得た豪商で、往復の途中には馴染みの常宿のみならず要所要所には別宅を構えていたらしい。

吉次は義侠心強く商略にも長けていたが政略にも長じ胆略もあり、義経の戦功には彼の物資の調達等陰の力があづかっていた。

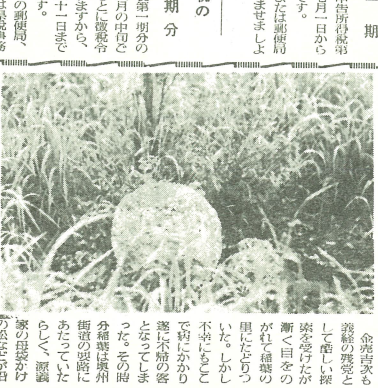
京都の別宅の留守居には気のきいた美しい女性をおいて情報を集めさせて平泉に通報させていた。

寿永二年平家が西に走り、ついに壇の浦の藻屑になった時、安徳天皇さえ入水しておかくれになるといった悲惨事があった。天皇の御母建礼門院も西国に落ちのびられたが、それに先だち多くの女官に暇を賜わった。その中の一人に高尾という美しい女官がいた。高尾はその後人買いの奸商に欺かれ遊女に売られて武蔵の国の旅宿にいて苦海に呻吟する身となっていた。

たまたま吉次は旅宿の折この高尾とちぎり、高尾の身の上をきき哀れに思い、その身の代金を払い自由の体にしてやった。

当時は変転極まりない世の中で昨日の常将軍義経は、兄頼朝の勘気をうけて山伏姿に身をやつし、やっと安宅の関の難をのがれて奥州に落ちていった。

金売吉次も義経の残党として酷しい探索を受けたが漸く目をのがれて稲葉の里にたどりついた。しかし不幸にもここで病にかかり遂に不帰の客となってしまった。その時分稲葉は奥州街道の要路にあたっていたらしく、源義家の母袋かけの松などが沿道にあることなどからも要路であったことの一証査になる。



静御前が義経のあとを慕いさすらいの旅に出たように高尾は吉次のあとを慕って奥州をさして旅路にのぼり稲葉の里まで来て、吉次がすでに他界したことを知り泣く泣く吉次の墓所にぬかづき後で供養塔を建ててねんごろに後世を弔ったという。

これが今上稲葉吉次内にある吉次塚の由来である。

なお吉次塚の傍に小観音堂があるが、これは吉次が生涯守本尊として持っていた観音像をまつったものだという。